



## 個別療育プログラム「トト」とは？

所員 福本有紗・小島花観

療育を受ける上で、集団療育にしようか、それとも個別療育の方がよいか迷っているというご相談を受けることがあります。集団療育と個別療育は、どちらも個別支援計画に基づいて行われ、どちらも利点があり効果的です。集団療育と個別療育には、それぞれのメリットがあるため、療育を受けるお子様のニーズに応じて、どちらかを選んだり、両方を併用したりするとよいでしょう。

「きらっと28号」では、放課後等デイサービスによる集団療育の役割やメリットをお伝えしましたので、今回は、スマートキッズ株式会社が開発した個別療育プログラム「トト」についてご紹介します。

私共、スマートキッズ株式会社が、トト事業をスタートさせたのは、2年前でした。行徳、船堀、新大阪、武蔵藤沢の4拠点から、現在は、東大島、葛西、横浜がオープンし、全部で7拠点に増えました。完全個別からスタートしたトトですが、お子様の課題に合わせて現在は小集団療育も実施しています。各教室とも、子どもたちの異なる特性やお悩み等、「困った」にしっかり向き合い、子どもたちの「楽しい」「できた」につながる支援を心掛けています。

トトの主な特徴は、①時間的・空間的な枠、②対象年齢の広さ、③豊富なプログラム展開、④保護者への専門的なフィードバックの4点です。以下、一つずつ説明させていただきます。

### ①時間的・空間的な枠

支援の提供時間は45分間。この中身は非常に濃く、1枠10分、4コマという限られた時間の中で、子どもたちは集中して取り組みます。未就学のお子様には、始まりの時間、課題に取り組む時間、終わりの時間など、明確な区切りがあることで、見通しを立てることができます。見通しが立つと何が良いかという、不安に駆られる必要がないというメリットが生じます。不安に駆られると、集中が続かなかったり無駄に動いてしまったりします。そういった見通しが立てられるような工夫を丁寧に行っているのが、トトの最大の特徴で、プログラムの内容はお子様一人ひとりに合わせた内容を実施し、利用されるお子様に合わせたオーダーメイドの支援が可能になっています。

### ②対象年齢などのはば広さ

トトの療育対象は、未就学児から高校3年生まで幅広い対象年齢となっています。通所するお子さまたちの半数は、発達障害があるお子さまですが、いわゆるグレーゾーンのお子さまも多くいらっしゃいます。クラスで少し気になるお子さま、不登校のお子さま、保護者がお子さまの発達の気になるところについて支援をしてもらえる施設を探して入室するなど、様々なケースがあります。

### ③幅広いプログラム展開

対象年齢が広く、多様なニーズがあるため、プログラムの展開は非常に広がっています。未就学児のお子様には概念を形成するためのプログラムや、日常生活動作をスムーズに行えるものがそろっています。一方、小学生、中学生、高校生のお子様には、学習支援を含めた内容や、ソーシャルスキルトレーニング、将来を見据えた就労・自立のプログラム、自分を内省するための発達障害の特性を理解し対処法を身に付ける特性理解プログラムを展開しています。プログラムの中にも様々なワークが入っており、総計 3000 余りのワークを取り揃えているため、本人や保護者さまが困っているところにフォーカスしたワークに取り組むことができます。また、今年度に入り、新たにプログラムを追加しました。他者との交流の土台を育むコミュニケーション発達に特化したプログラムと、就学に向けた準備を行うプログラムの二つです。お子様のニーズに特化し、さらに支援の充実を図るため、開発したものです。

### ④保護者への専門的なフィードバック

子どもたち一人ひとりの発達の状況を心理士や作業療法士をはじめとする専門家と教室のスタッフが協力して、丁寧にアセスメントし、一人ひとりの子どものニーズに応じた療育支援を提供しています。半年に一度は各教室とも、作業療法士と共に事例検討会を行い、より専門性の高いアセスメントができるよう研修を積んでいます。毎回の支援が終わった後、保護者様に療育内容のフィードバックを行います。専門家からのアセスメントやスーパービジョンを受けることで、より専門的なフィードバックをすることが可能になります。また、フィードバックでは、保護者様から普段の生活での不安やお困りごとをうかがい、そこで出てきたお困り感も次の療育内容に反映させることにより、今、その場で必要な課題に即座に対応できるという強みがあります。

トトの教室は、様々な願いからスタートした事業です。集団療育を長く実践してきたからこそその経験とジレンマがありました。集団療育だと長い時間を過ごせるよさがある一方、スタッフがそれぞれのお子様の課題にアプローチできる時間は、限られてしまう難しさもありました。お友達同士の関係性、コミュニケーションのあり方は浮き彫りになっても、その子自身の特性や、発達状況にゆっくり向き合う時間がなかなか取れないという難しさです。もう少し向き合う時間があれば、もう少し付き合うことができれば、もう少し、ゆっくり。その言葉に続く言葉は、私どもから紡ぐわけにはいきませんが、そういう苦い気持ち、願い、祈りが、この事業を育てたのだと感じます。コミュニケーション、社会性を育むための練習の場、練習の練習といってもいいかもしれません。集団療育のかなり前の準備段階の場所が望まれ、小集団の事業へと拡大しました。教室も増え、お子様たちの成長の実感、成果をうかがうことがとても嬉しいです。今後も、子どもたちの健やかな成長のため、さらに進化させていきたいと思えます。



 小島 花観 (こじま はなみ) 臨床心理士、公認心理師

発達障害などを抱えているお子さんの支援や、就労支援に関わり、子どもたちの個性や長所に寄り添った支援を目指しております。

 福本 有紗 (ふくもと ありさ) 臨床心理士、保育士、幼稚園教諭

保護者様の支援や連携にも力を入れて取り組み、子どもの持つ力を引き出しながら社会生活のスキルを提供できるよう頑張ります。